I-O DATA

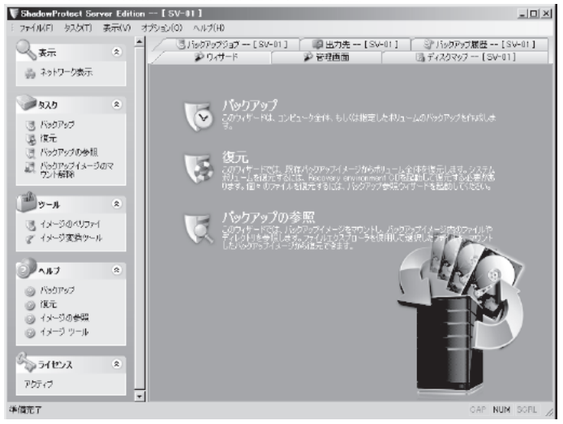
B-MANU201774-01

LDOP-SW/SP

セットアップガイド

本紙では、HDL-ZWS(A)シリーズにShadowProtect 4をインストールして、他のNASの共有フォルダーへバックアップする手順を説明します。

▼ShadowProtect 4 Serverコンソール画面



ShadowProtect 4 の構成

機能	内容
ShadowProtect コンソール	ShadowProtectの操作画面です。バックアップ エージェントの管理やVirtualBoot機能、イメージ変換ツールなどを使用できます。
StorageCraft Recovery Environment	Windows PEベースのリカバリメディアです。システムボリュームの復元、異なるハードウェアや仮想マシンへのハードウェア非依存の復元を行います。
ShadowProtect バックアップ エージェント	バックアップ イメージの作成や管理をします。操作はShadowProtect コンソールから行います。
ImageManager	イメージ バックアップ ファイルの統合やベリファイなどを行います。

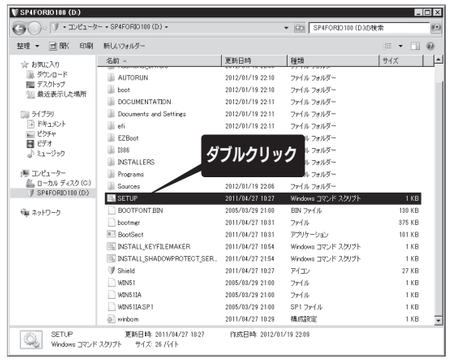
【ステップ 1】 インストールする

バックアップ対象NAS(HDL-ZWSA)へShadowProtect 4をインストールします。

※インストール後にNASの再起動が必要です。
※NASの画面を確認するには、NASにディスプレイを接続するか、PCからリモートデスクトップでアクセスします。

❶ ShadowProtect 4 for I-O DATA のUSBメモリーをバックアップ対象NASに接続します。

❷ ShadowProtect 4 for I-O DATA のUSBメモリー内、「SETUP」ファイルをダブルクリックします。



❸ 「ShadowProtect Server Edition 4.1.5」をクリックします。

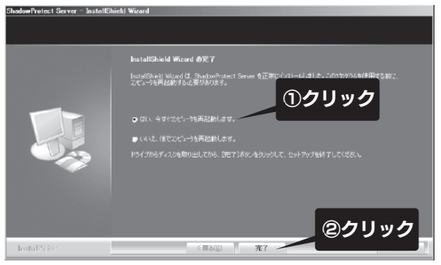
❹ インストールファイルを任意の場所に保存します。

❺ USBメモリーを取り外します。

❻ 「JPN_SERVER_SETUP_4.1.5.EXE」をダブルクリック(実行)します。

❼ 画面の指示にしたがって、インストールを実行します。[セットアップタイプ]は[完全]を選択します。

❽ 再起動を促すメッセージが表示されるたら、[はい、今すぐコンピュータを再起動します]を選択し、[完了]ボタンをクリックします。



以上で、ShadowProtect 4 のインストールは終了です。

※ShadowProtect 4 を利用する前に必ずコンピュータを再起動してください。
再起動する際には、ShadowProtect 4 のUSB メモリーをバックアップ対象NAS から取り外してください。

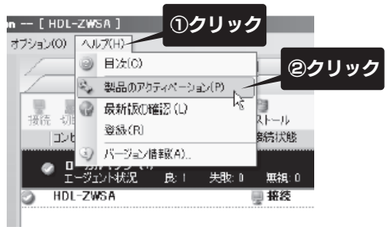
【ステップ 2】 アクティベーションする

ShadowProtect 4をインストールすると、30日間のトライアル版として試用することができます。製品版として登録するには、シリアル番号を登録(アクティベーション)する必要があります。

※30日間の試用期間中にアクティベーションしなかった場合は、機能が限定され、バックアップや復元が行えなくなりますので、試用期間内にアクティベーションしてください。
※試用期間は管理コンソール画面左下側の[ライセンス]部分で確認することができます。
※アクティベーション時にインターネット接続環境が必要です。
※アクティベーションを解除するには、[ヘルプ]メニューの[製品のアクティベーション]をクリックし、表示される[アクティベーション]ダイアログボックスの[アクティベーション解除]ボタンをクリックします。

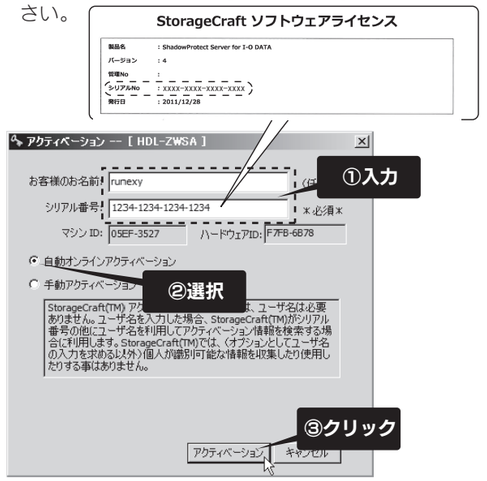
❶ [スタート]→[すべてのプログラム]→[ShadowProtect]→[ShadowProtect Sever]をクリックします。

❷ [ヘルプ]→[製品のアクティベーション]をクリックします。

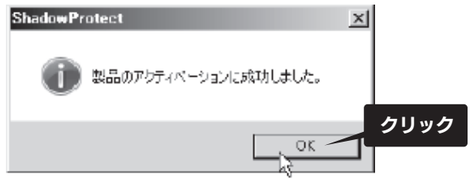


❸ [お名前](任意)、[シリアル番号]を入力し、[自動オンラインアクティベーション]が選択されていることを確認して、[アクティベーション]ボタンをクリックします。

※[シリアル番号]は、別紙「StorageCraft ソフトウェアライセンス」に記載の[シリアルNo]を入力してください。



❹ アクティベーションの成功を確認するメッセージが表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。



以上で、ShadowProtect 4のアクティベーションは終了です。

【ステップ 3】 バックアップイメージファイルを作成する

ShadowProtect 4では、次の方法でバックアップイメージファイルを作成できます。

▼ バックアップスケジュール

スケジュール	種類	タイミング
今すぐ	完全 差分	すぐにイメージ バックアップ ファイルを作成します。
1回のみ	完全	指定した日時にイメージ バックアップ ファイルを作成します。
毎週	完全 増分	週単位で完全バックアップを作成する曜日と時間、増分バックアップを作成する曜日と時間を設定できます。 増分バックアップの頻度は最短15 分間隔から設定できます。
毎月	完全 増分	月単位で完全バックアップの開始日と時間、増分バックアップを作成する曜日と時間を設定できます。 増分バックアップの頻度は最短1 時間単位で設定できます。
連続増分	増分	一つの完全バックアップを作成して継続的に増分バックアップを作成します。 増分バックアップの頻度は最短15 分間隔から設定できます。

▼ イメージバックアップ ファイルの拡張子

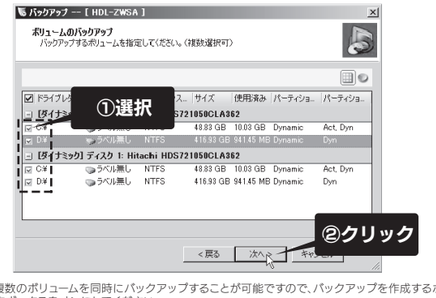
種類	拡張子	タイミング
完全	spf	特定の時点でのボリュームの状態を保存したイメージファイル。
増分	.spi	増分は、直前に作成したバックアップアーカイブからの増減分のみがバックアップの対象となります。復元時に「完全アーカイブ」と、歴代全ての「増分アーカイブ」が必要となります。
差分	.spi	差分は、初回に作成した完全バックアップからの増減分がバックアップの対象となります。1回ごとのファイル容量は増分バックアップに比べて大きくなりますが、復元時は、完全バックアップ アーカイブと最新の差分アーカイブのみが必要となります。

❶ [ウィザード]タブを選択し、一覧から「バックアップ」をクリックします。
→バックアップウィザードが起動します。

❷ [次へ]ボタンをクリックします。



❸ バックアップを作成するボリュームを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
システム領域、データ領域のすべてをバックアップする場合はCとDを選択してください。
データ領域のみバックアップする場合はDを選択してください。

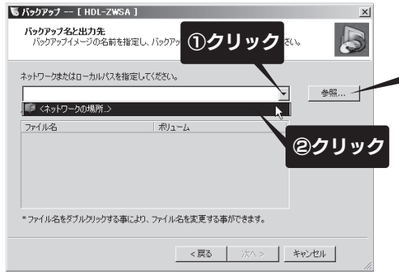


※複数のボリュームを同時にバックアップすることが可能ですので、バックアップを作成するボリュームのチェックボックスをオンにしてください。
※HDL-ZWSA シリーズは、ソフトウェアRAID であるため、Windows OS 上からはダイナミックディスクとして認識されます。そのため、バックアップウィザード中に物理ディスクの個数分ディスクが表示されますが、ボリュームを選択すると関連するボリュームが一緒に選択されるようになっています。

ウラにつづきます

【ステップ 3】 バックアップイメージファイルを作成する(つづき)

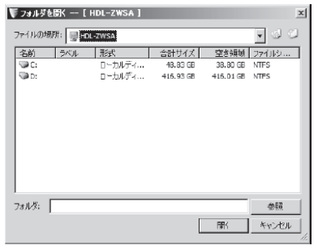
❹ ネットワークにバックアップする場合は、[ネットワークまたはローカルパスを指定してください]の▼をクリックし、一覧から[＜ネットワーク参照＞]をクリックします。



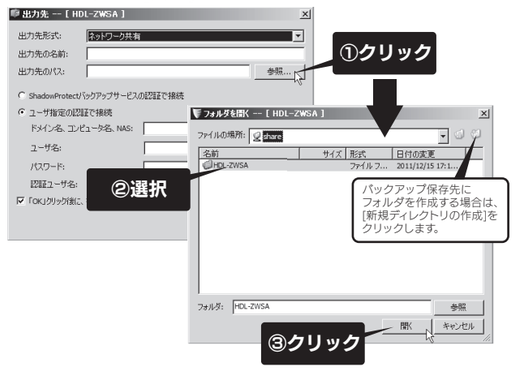
▽ 外付けHDDにバックアップする場合

バックアップ対象NASに接続している外付けHDDなどにバックアップする場合は、左の画面で[参照]ボタンをクリックし、表示される[フォルダを開く]ダイアログボックスを使用してください。
※外付けハードディスクなどにバックアップを保存する場合は、設定後、下の手順 ❼ へお進みください。
[フォルダを開く]ダイアログボックスの一覧には、ネットワーク上にあるNAS は表示されません。

▼[参照]ボタンをクリックした状態

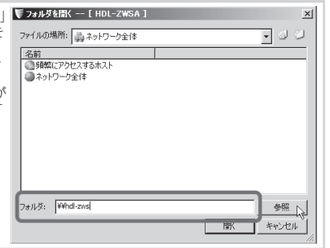


❺ [参照]ボタンをクリックし、バックアップ先に指定するNASを選択し、[開く]ボタンをクリックします。

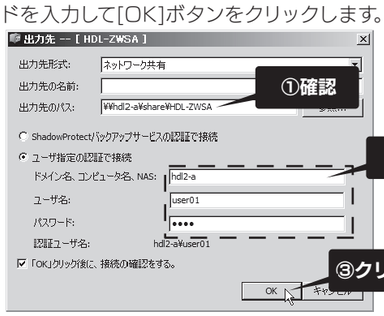


❗ NASのフォルダー覧が表示されない!

[フォルダ]に[¥¥NAS名]または[¥¥IPアドレス]を入力して、Enterキー(または、[参照]ボタン)を押します。
認証ダイアログボックスが表示されますので、接続するためのユーザー名やパスワードを入力すると、NASのフォルダー覧が表示されます。

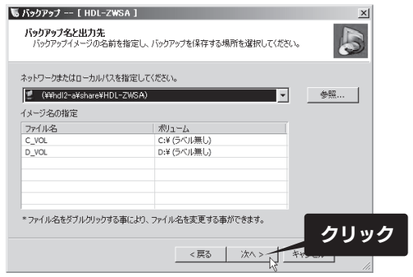


❻ [出力先]ダイアログボックスの[出力先のパス]が設定されたことを確認し、[ユーザ指定の認証で接続]を選択して、接続先NASの共有フォルダ名やユーザ名、パスワードを入力して[OK]ボタンをクリックします。

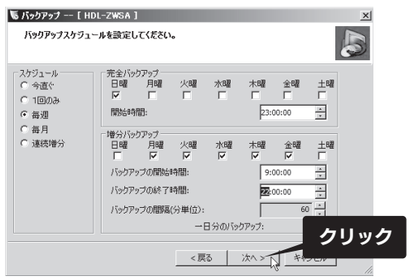


❼へ

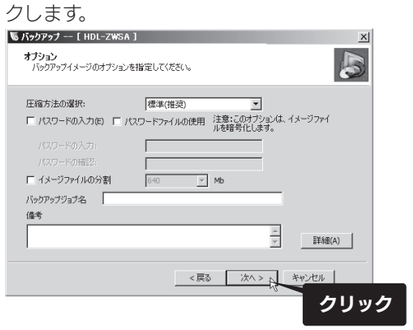
❼ [バックアップ名と出力先]画面に戻りますので、出力先(保存先)とバックアップイメージ名を確認し、[次へ]ボタンをクリックします。



❽ お好みのスケジュールを設定して、[次へ]ボタンをクリックします。ここでは例として、「毎週」を選択しています。



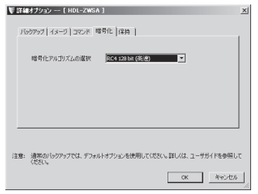
❾ 圧縮方法や暗号化の設定をして、[次へ]ボタンをクリックします。



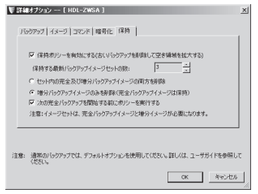
※圧縮方法としては、次の3種類ありますが、デフォルトのまま「標準」を設定されることを推奨しています。

無し	データの圧縮を行いません。
標準(推奨)	約40%にする一般的なデータ圧縮です。 デフォルトの圧縮オプションになります。また、バックアップスピードとディスクの使用量のバランスも最適なオプションです。
高	約50%にする一般的なデータ圧縮です。 このオプションは、多くのシステムリソースを必要とします。データバックアップが最も遅くなりますが、ディスクスペースに余裕がない場合に有効です。 ただし、データの種類によっては、標準と変わらぬ圧縮率となることもあります。

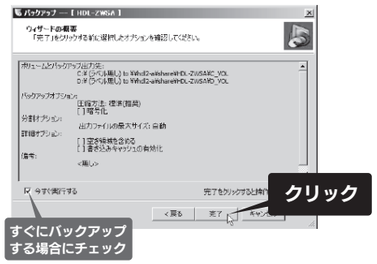
※[パスワードの入力]チェックボックスまたは[パスワードファイルの使用]チェックボックスをオンすると、イメージバックアップファイルに対して暗号化を設定することができます。
暗号化のアルゴリズムとしてRC4 128bit・AES 128bit・AES 256bit から選択できます。(デフォルトの設定は、RC4 128bit となります。)
暗号化のアルゴリズムを選択するには、[オプション]画面の[詳細]ボタンをクリックし、表示される[詳細オプション]ダイアログボックスの[暗号化]タブで行います。



※バックアップイメージファイルを定期的に削除するには、保持ポリシーを設定します。
保持ポリシーを設定するには、[オプション]画面の[詳細]ボタンをクリックします。
保持ポリシーを実行するには、[保持ポリシーを有効にする]と、[次の完全バックアップを開始する前にポリシーを実行する]にチェックします。
なお、既存のバックアップジョブに対して保持ポリシーを設定しても、適用されずに定期的にバックアップイメージファイルを削除しません。そのため、保持ポリシーを設定する場合は、バックアップジョブを新規に作成して設定してください。



❿ 作成するバックアップの内容を確認し、[完了]ボタンをクリックします。
すぐにバックアップを作成する場合は、[今すぐ実行する]にチェックします。ここにチェックされていると、[完了]ボタンクリック後にバックアップを開始します。



⓫ バックアップの作成が完了すると、ステータスが「完了」となります。

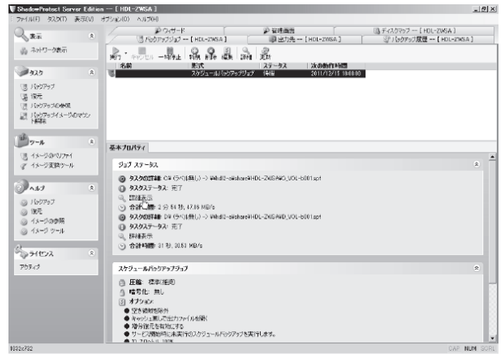


以上で、バックアップジョブの作成は終了です。

【ステップ 4】 バックアップ ジョブを確認する

バックアップ ジョブを作成すると、[バックアップ ジョブ]タブの一覧に表示されます。

▼[バックアップ ジョブ]タブ

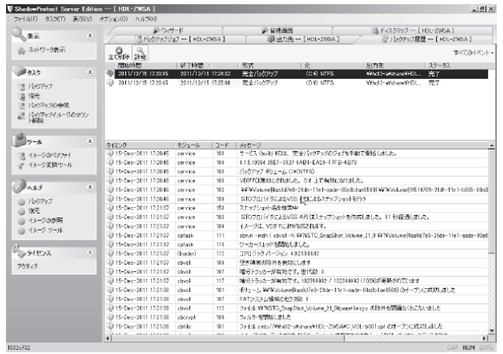


※[基本プロパティ]タブ内にある、[詳細表示]をクリックすると、別のタブで詳細情報が表示されます。
[詳細]タブ内の[閉じる]ボタンをクリックすると、[詳細]タブが非表示となります。

【ステップ 5】 バックアップログを確認する

[バックアップ履歴]タブを使用すると、実行されたタスクのログを確認することができます。

▼[バックアップ履歴]タブ



※ログファイルは、次のフォルダに保存されています。
文字コードは「Unicode」となります。
C:¥Program Files (x86)¥StorageCraft¥ShadowProtect¥Logs

復元手順・詳細説明について

その他機能の詳細については、USBメモリー内の「クイックガイド」をご覧ください。
USBメモリー内、「SETUP」ファイルをダブルクリックし、「オンラインユーザーズガイド」をクリックすると、表示されます。



デジタルライフの夢を拡げる
株式会社 アイ・オー・データ機器
本社サポートセンター：〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
ホ ー ム ペ ー ジ：http://www.iodata.jp/support/